

令和2年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

| | |
|------|---|
| 基本方針 | 「創造性豊かな世界市民」の資質を育む |
| 学校運営 | SGHとして研究開発をすすめてきた5年間の成果を踏まえ、「世界市民教育プログラム」を推進する。地球的課題の探究を軸に、「主体的・対話的で深い学び」による総合的な人間力の育成を目指したい。また、「校訓」を諸活動の根幹に置き、価値創造のための教育実践を、次の重点目標に取り組むことで重ねていきたい。 |

2. 教育活動における重点項目

〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. SDGsを意識づけ、変革のための行動を促進
2. 総合的な探究(GRIT)の基盤を構築
3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)
4. ユネスコ・スクールとの交流を促進

〔Ⅱ〕「可能性」の育成のために

1. 授業力の向上、オンラインによる個別学習の推進
2. スタディサプリの活用
3. キャリア教育の推進
4. 名作・長編の読書運動

〔Ⅲ〕「心」の育成のために

1. 「校訓」を学び実践する機会を広げる
2. 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進
3. いじめや暴力をなくすため、対話力(とくに「聴く力」)を磨く
4. 「創立者とともに」の読了を推進

【自己アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| 自己評価アンケートの結果と分析[令和2年3月実施分] | 学校評価委員会からの意見 |
|---|---|
| <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業のおかげで、動画を何度も観て理解することが出来た。 ・オンライン授業のため、生活リズムを整えることが難しかったが、意識して律することができた。 ・多くのことを知り、新たな疑問を作ることが出来た今回のグローバルシチズンシップセミナーだった。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の授業の充実を感じている。 ・オンラインで配信される授業の向上を期待している。 ・生徒との懇談の機会を増やしてもらいたい。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを意識付け変革のための行動を促進することが出来た。 ・授業力の向上、オンラインによる個別学習の推進に取り組めた。 ・思いやりの心を育てる人権教育を推進することが出来た。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の部分で、心根、人柄を育成する機会を意識してもらいたい。 ・コロナ禍において、自宅学習の課題や夏休みの課題が多かった。教科で連携をとってバランスを考えていただくとありがたい。スタディサプリは大変に便利に活用していて、ありがたい。 ・4月にわからなかった英語のテキストが、学年末にわかるようになっていた。英語科の先生方の1年間のご指導に感謝した。また、担任の先生方が、きめ細やかに進路指導をしてくださっている。 ・GRITの取り組みに期待している。グローバルシチズンシップセミナーの講演に大変に感動していた。素晴らしい講師との出会いが大きな刺激になっている |
| <p>【分析】</p> <p>コロナ禍の下での教育について、生徒・保護者・教員が様々な思いをもった1年間であった。教員の側の「授業を充実させたい」という思いや努力は伝わっているものの、課題のバランスやオンライン授業を受ける側の生徒の状況について想像力を働かせ、思いをしっかりと聞いていくという努力が必要である。</p> <p>また、これまでSGH校として積み上げてきたGRITの取り組みやグローバルシチズンシップセミナーへの保護者の期待が大きいことから、今後もさらに工夫を重ね充実させていく必要がある。</p> | |

【学校目標の主な総括】

| | 今年度の重点目標 | 取り組みの内容 | 評価 | 改善点 |
|----------------------|--|--|---|--|
| SDGsを促進する意識づけ、変革のための | 各教科また生徒会活動においても意識づけをすすめる。 | SGHとして活動した5年間の様々な取り組みを、今後も継続して活かしていくための「世界市民教育推進室」を設置し、学年や教科の取り組み、生徒会活動について毎週討議を行う。 1. 2年生はGRIT課題探究をSDGsを題材に行う。 | 「世界市民教育推進室」と学年・生徒会が連携し「MySDGs運動」を展開。全生徒と教員が自分自身で取り組むSDGs課題を考えて、日々の生活で取り組むことで「自分ごと」として意識することが出来た。 | 「世界市民教育推進室」の構成メンバーを毎年更新していくことで、全教員がSDGsを中心とした「世界市民育成」の意識をもって、授業や諸活動に臨めるようにしていく。 |
| 総合的な探究（GRIT）の基盤を構築 | SGHの取り組みの中心的な試算である探究型総合学習GRITのさらなる充実を目指す。 | 1年次、GRITで探究基礎を学び、UPクラスの参加をすすめ、世界の諸問題に関心を持つ生徒を増やす。 2年次、zoomを使って大学教員の前でプレゼンテーションし、発表力を伸ばす。また、下級生にポスターセッションを通し、全員が発表力を伸ばす。 3年次、学年全体で核軍縮シミュレーションを行い、全員が各国の大使となり自国の課題解決に向けて他国の大使と交渉し、合意形成の難しさを体験した。 | 各学年がスタート時に予定していた計画が、感染症の影響のため制約を受けることになったが、生徒・教員が工夫の困難を乗り越える工夫と、諸方面のご支援で、今までを超える成果をあげた取り組みがあった。3年生の研修の取り組みは、実際に現地に赴くことこそ出来なかったが、生徒と受け入れ側相互の想いがこもった交流をすることとなった。感染症に負けない取り組みを通して、まさに「総合的な探究」に取り組めた一年であった。 | 今まで積み上げてきた、様々な取り組みが、感染症の心配がない世界を前提としてくみ上げられているので、持続可能なものとしていくために、各取り組みの本質を見極めた上で実施方法の改善を考えて行く必要がある。 |
| ユネスコスクールとの交流を推進 | 世界市民教育推進室による企画をスタートする。 | 持続可能な開発のための教育(ESD)を通し、平和に貢献するグローバルリーダーとしての①使命感、②共感力、③問題解決への創造力の育成に注力。 感染対策によりオンラインでの交流を模索した。オンライン特別セミナーの開催、オンラインフォーラム等を通じて他校・他団体と交流。 学校を挙げてSDGs達成を促す実行可能な目標である「My SDGs」を掲げ、行動を起こしていくことを目的に、 | ESD並びにユネスコスクールの活動に関心を持った生徒が、「ユネスコスクール オンライン近畿地方大会子どもフォーラム」に参加。近畿のユネスコスクールに通う児童・生徒の皆さんとともに持続可能な学校・地域社会・世界づくりに向けた取り組みについて考え、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」作成に携わった。 「My SDGs in Action」を通じて、SDGs達成に向けて意識を帰ることができ | 、「フォーラム」を通じて、他校と交流をすることができたが、さらに積極的に交流を求めていく必要あると感じた。コロナ禍のため、さまざまな制約はあるが、オンラインによる交流を発展させたい。 「SDGs」に対する意識・関心を継続的に持たせる工夫を考えたい。 |
| スタディサプリの活用 | スタディサプリの有効な使い方の情報共有をはかる。 | スタディサプリアを活用した授業(反転学習での活用や復習での利用など)の情報法の共有。 学習動画以外の機能(アンケートや宿題の配信)などの活用方法の紹介。 | 従来からの生徒の学習のサポートでの利用だけでなく、授業で活用する教員が増加した。ただ、全教員に対する割合は低い状況であるので、今後、リクルートより講師を招いてセミナーを開催するなどの対策が必要。 | リクルートから講師を招いたセミナーの開催など、成功事例を教員間で共有することで活用を推進していく。 |
| キャリア教育の推進 | 進路指導部主催のキャリア教育を更に充実させる。 国公立大学、難関私立大学の50名以上の合格者をを目指す。 海外の大学進学10名以上を目標とする。 | 入学時にキャリアデザインのセミナーを受講し、キャリアデザインマップを作成する。学年の終わりに振り返りをした。 学びの振り返りを行い、自分自身を俯瞰する力を伸ばすことに挑戦した。 大学別の説明会を実施し、大学の情報に触れる機会を増やす。 キャリアガイダンスや医歯薬セミナーなど、社会で活躍する卒業生に直接触れキャリアに関して考えるられる機会をつくる。 | 2020年度は、国公立大学合格者23名、難関私立51名(既卒含む)の合格者であった。また、医学部には6名が合格した。海外大学にはSUA14名、他大学1名が合格した。 | これからの多様化する進路選択に対応できるように、教員が進路研究を進めるとともに、生徒・保護者との情報共有につとめていく。 今年度、国公立大学の総合型選抜で合格者を排出することが出来た。今後も継続して合格者がだせるように、学校として体制作りをしていきたい。 |

【学校評価総括表】

| 大項目 | 中項目 | 重点項目 | 具体的な実践 | 達成度評価 | 評価平均値 | 評価の分析・実践と今後の展望 |
|-----------------|---------------------------------|---|--|-------|--|--|
| 教育活動・実践における重点項目 | 〔1〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために | 1. SDGsを意識づけ、変革のための行動を促進 | 全生徒・教員による「My SDGs」の作成・掲示 GRITでのSDGs探究をもとにしたプレゼンテーション作成の取り組み。 | A | 3.2 | 「My SDGs」の作成に取り組んだことが、全生徒教員にとって「SDGs」を意識させ、実際に行動したという実感につながった。GRITでの探究活動とプレゼンテーションに取り組むことにより、「SDGs」への意識が高まった。今後は、17の項目をいかに学校生活や寮生活につなげていけるかが課題。 |
| | | 2. 総合的な探究(GRIT)の基盤を構築 | 1年生での「課題探究基礎」のスタート。 1年生での「アカデミックライティング」の授業の開始。 | B | 2.8 | 1年生の「課題探究基礎」の学習を引き継いで、2年生や3年生では「課題設定」や「リサーチ活動」が行われている。教員の実感として「アカデミックライティング」の授業の成果として、授業を受けた1年生の各文章の質が上がり、授業での発言力が向上している。「アカデミックライティング」の能力の向上が確認できるデータの収集。GRITの活動の積み重ねの成果である、「ルーブリック」を活用した評価は、各教科・科目・授業で活用されている。 |
| | | 3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上) | TOEIC講座の充実／検定試験受験補助 多読教材の整備・拡充と活用 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場 zoomを活用した海外識者との交流 | B | 2.9 | SUA教職員との懇談会、SUA留学生との交流等、zoomを活用した海外識者との交流など、英語学習への動機づけの機会を多くもつことができた。英語検定試験受検への補助によって、例年同様、安定的に受験に取り組めた。英検2級合格レベル(CEFR B1レベル)以上は、3年生の52%である。 ※TOEICでのスコアも含む。 授業の充実とともに対策講座を継続して実施していく。各種研修への参加状況を見ると、語学学習に興味を持って積極的に取り組んでいる層とそうでない層の間に乖離がおこっていることが感じられた。 |
| | | 4. ユネスコ・スクールとの交流を促進 | ユネスコ・スクール近畿地方大会への参加。 | B | 2.7 | 近畿ユネスコスクール作成の中心として活躍することが出来た。近畿ユネスコスクールの活動を通じて、奈良教育大学のみなさんとのつながりを作ることが出来た。今後は、一つ一つのつながりを広がりにしていく活動を展開していきたい。 |
| 〔2〕「可能性」の育成のために | 1. 授業力の向上、オンラインによる個別学習の推進 | Googleクラスルームをつかった、オンライン授業を行うための情報の教員間の共有。 | A | 3.1 | オンライン授業を利用した教室に入りづらい生徒のための個別学習の支援、感染症対策のため海外から入国できない生徒のための学習支援を実施することが出来た。これからは、さらにICTを活用した個別最適化された授業の在り方と実施方法の研究を行っていきたい。 | |
| | | 2. スタディサプリの活用 | スタディサプリアを使った、「キャリアパスポート」作成のためのデータ収集。 反転学習のための活用。 予備校や塾に行けない寮生・下宿生が予備校代わりに活用。 受験生の活用。 | B | 2.5 | 反転学習や課題学習で活用する教員が定着してきた。「キャリアパスポート」のデータ収集として、利用する道筋が出来た。上記の活用をしている教員が一部に留まり、全教員へと広がっていないという課題があるので、今後は、「活用講座」等を業者と連携しながら行っていきたい。 |
| | | 3. キャリア教育の推進 | キャリアガイダンスの実施(1・2年次) 適正診断の実施(1年次) オンラインによる創大説明会の実施(1年次) 弁護士による人権講座を実施(2年) 志望理由書の書き方授業(3年) | B | 2.5 | 卒業生に本校してもらい例年実施していた「キャリアガイダンス」は、感染症の影響で実施が危ぶまれたが、動画視聴とzoomによるリモート講義の形で実施することが出来た。将来のキャリアにつながる行事の終了後は、スタディサプリアのアンケート機能を利用したアンケートを採り、キャリアパスポートのデータ収集に役立てている。キャリア教育の知識とスキルが一部の教員に偏っているのが課題。今後、どのように共有していくかを考えていきたい。 |
| | | 4. 名作・長編の読書運動 | 朝読書の時間を確保する。 教員による「Book-Navi-Day」の実施。 名作駅伝の実施。 | B | 2.6 | 朝読書の時間を確保することで、一日の始まりに心を落ち着けて読書に取り組む環境を整えた。例年取り組んでいる「Book-Navi Day」や図書館のさまざまな工夫で図書館利用の頻度は高まっている。名作駅伝、ピリオパバトルなど生徒主体の読書推進活動も定着している。素晴らしい図書館をもっていることが、本校の一つの魅力でもあるので、生徒の読書運動をさらに推進すると共に、その情報を生徒募集の広報にも活用していきたい。 |
| 〔3〕「心」の育成のために | 1. 「校訓」を学び実践する機会を広げる | 新入生のGRITで校訓を深めるプログラムを実施。 アーカイブを活用 | B | 2.6 | 新入生の最初のGRITで、校訓を生徒同士が協同して深めるプログラムを実施した。今後は、三大行事での事前の学習活動で創立精神・校訓を深められるように検討していきたい。 | |
| | | 2. 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進 | 探究学習の中で多様性を学ぶ機会を作る。 頭髪や服装のルールについて、生徒と教員が意見を交換する。 | B | 2.6 | GRITでのSDGsの学習活動を等して、多様性やジェンダー平等について考える機会を作ることが出来た。頭髪や服装に関するルールについての生徒の意見を掌握し、教員と意見を交換することで多様性を尊重する校風を作っていく。 |

※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9～2.0をB、1.9以下をCとした。
※評定平均値は、全教職員が4段階で評価した平均値。